

LPガスCP速報(2026年3月積)

1. 3月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **545** ^{ドル} (前月比±0 ^{ドル})

ブタン **540** ^{ドル} (前月比±0 ^{ドル})

① LPガススポット市況等

LPガスは需要の最盛期、極東、米国が寒波に見舞われ、暖房需要は増加、石化需要も堅調。米・イラン情勢の緊迫化を受け、原油市況が上昇したものの、アジアLPガス市場は中国をはじめ旧正月を迎え閑静なマーケットとなった。石化需要は、中国、韓国、台湾からも引き合いが散見され、先物市況は、需給逼迫を示すバックワーデーション（期近高期先安）が続いている。CFR市況は軟化傾向、第3週中東～極東着プロパン 580 ^{ドル}（前週比-10 ^{ドル}）、ブタン 600 ^{ドル}（同±0 ^{ドル}）どころで推移した。

米国市場をみると、需要は寒波以降堅調、輸出は好調が続く、過去最高水準（グラフ③参照）で推移している。全米プロパン在庫は、需要期の取崩しが続いているが、超高水準で5年平均レンジを上抜けている（グラフ②参照）。モンベルビュープロパンスポット価格は月間平均では前月比3 ^{ドル}続落の319 ^{ドル}/トどころ。先月末急騰した天然ガス価格は軟化、ヘンリーハブ先物価格期近4月限は、下旬に入ると3 ^{ドル}を割り込んだ。

フレート市況は上昇した。船舶需給がタイト化、極東・北米カーゴの価格差から北米の傭船需を下支え、長距離の米国向けを志向する船主もあり、余剰船舶を米国市場が吸収。旧正月で市場は閑散となったが、休暇明けのフレート市況は中東～極東 90 ^{ドル}～100 ^{ドル}に上昇、米国～極東 140～160 ^{ドル}で推移。米国・イラン情勢が緊迫化し、ペルシャ湾、ホルムズ海峡を運行するリスクが高まっており、影響が懸念される。

ナフサ市況は続伸、月間平均は前月比42 ^{ドル}上昇の604 ^{ドル}/トどころ。原油市況に連れ高、国内のナフサ石化需要は堅調、下旬以降は615～635 ^{ドル}の推移となった。

バンカーオイルをみると、シンガポール IFO380 は大幅続騰、月間平均で前月比57 ^{ドル}上昇の438 ^{ドル}どころ、LSMGO（低硫黄マリンガスオイル）は反騰、前月比58 ^{ドル}上げの686 ^{ドル}どころ。原油市況の上昇に連れガスオイルは下旬に700 ^{ドル}を突破、寒波により在庫は減少、地政学リスクの影響も懸念される。C重油との格差は変わらず。

3月CPは前年同月比プロパン 70 ^{ドル}、同ブタン 65 ^{ドル}の下落。原油（アラビアン・ライト）熱量等価換算（下記参照）では、前月に比べプロパン 9、ブタン 9 ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン 3 ポイント、ブタン 3 ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート（中東～日本）	100	90	100		
CP先物指標：P	530	520	540		
CP先物指標：B	520	515	530		

② 原油市況等

2月のWTIは続伸、2か月連続の上昇で昨年8月以来の高値となった。米・イランの核協議が継続される一方、トランプ大統領は米海軍空母打撃群を追加派遣、イランの核保有を許さない構えで、地政学リスクプレミアムが上昇した。27日には米国など複数国が中東の一部地域からの避難勧告を行い、軍事衝突の懸念が高まっている。OPECプラスは4月からの増産（13.7万b/d）を検討、緊急事態に備えた対応とみられる。先物市場では、ファンダメンタルが買い建玉を積み増し、低水準で推移していた買い越し残高は17.3万枚と昨年7月以来の水準まで戻した。プロンプトスプレッド（期近2限月の値差）の逆ザヤは縮小、タイト感は薄れてきたが、中東情勢がボラティリティを高めることになりそうだ。

、先物市場ではプロンプトスプレッド（期近2限月の値差）の逆ザヤが急拡大した。

○2月積みアラビアン・ライト（2月1～27日までの想定）は68.45 ^{ドル}（前月比+5.78 ^{ドル}）

熱量等価AL100% プロパン 561.22 ^{ドル}/ト ブタン 553.52 ^{ドル}/ト

AL比 プロパン 97.11% ブタン 97.56%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

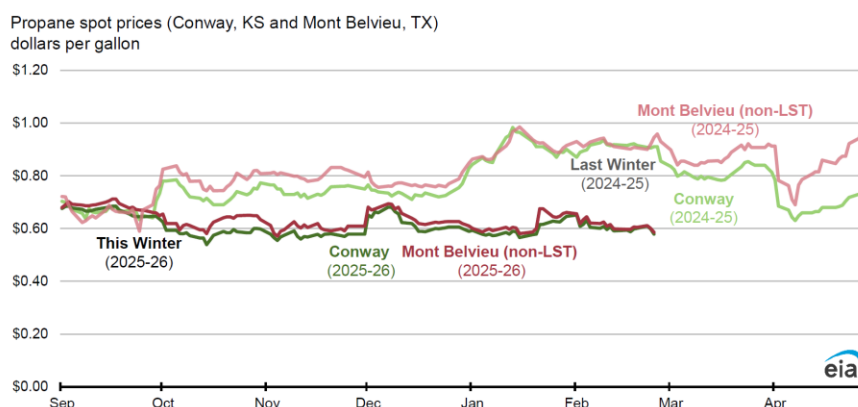
2. 2026年3月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P 円建 C F R	B 円建 C F R	P 前月比	B 前月比
2月月間	156.13	91,200	95,100	+1,200	+1,600

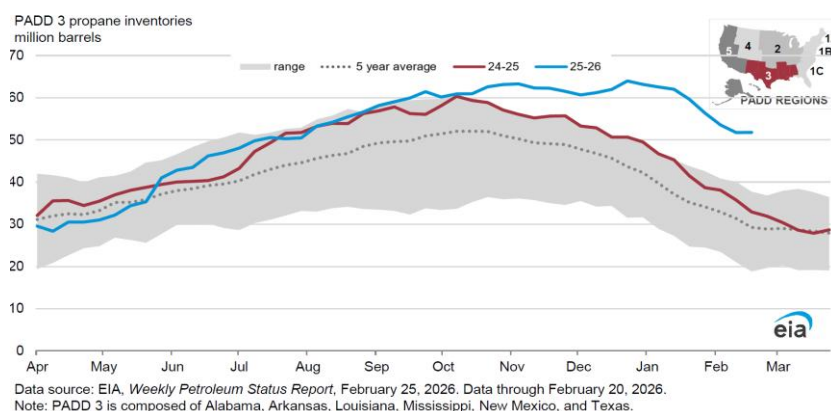
* T T S 平均等について、上記は2月1～28日までのT T S 平均。C P は前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はC P 70%、MB 30%で算定。C F R コストは中東・北米フレートを含むC F R コストを表示。C F R コストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは2月26日までの価格を基にE I Nで試算（319ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

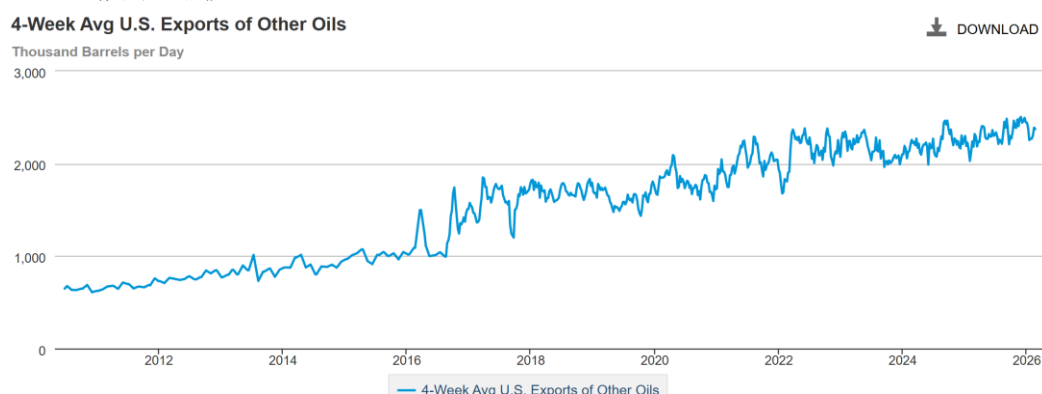
① 米国プロパンスポット価格推移



② 米メキシコ湾プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移



U.S. Propane and Propylene Ending Stocks Excluding Propylene at Terminal

barrels

